

演目 『葛城キリ』

行番	役	詞章	現代語訳	トークのヒント
1	シテ	高天乃原の磐戸の舞	高天原の天の岩戸の前で神楽を舞った という伝説になぞらえて舞を舞うと、	
2	地	高天の原の磐戸の舞		
3		天の香具山も向ひに見えたり	向こう側に天の香具山も見える。	
4		月白く雪白く	月も白く、雪も白く、	
5		何れも白妙のけしきなれども	全て白い景色だけれども、	
6		名におふ葛城乃	有名な葛城の神は	
7		神の顔がたち面なや面はゆや	見苦しい顔かたち。	
8		恥かしやあさましや	人に見られるのが恥かしい、あさましい。	
9		あさまにもなりぬべし	そう言っているうちに夜も明けてきた。	
10		明けぬ先にと葛城の	明けないうちに帰ろう、と、	
11		明けぬ先にとかつらきの夜の		
12		磐戸にぞ入り給ふ磐戸の内にぞ	葛城の神は岩戸の中に	
13		入り給ふ	お入りになった。	

① 【冬の能】

葛城キリは葛城明神が舞を舞ううちに

朝が来て山伏の前から消える場面。

美しい事を表す雪月花。

美しいのは雪の朝、夜の月、時の花。

葛城キリはその内の一つである

雪の朝の光景が見られます。